



## 【特集】 武田クラブ

# その強さの秘密に迫る

「今年は、去年ほどの活躍はできないかもしれないですよ」

公式戦がまもなく始まる春、監督の佐々木先生はこう言った。昨年、武田クラブはめざましい成績を収め、地区の強豪として名を馳せていた。それゆえ出た言葉だったと思う。

ところがどうだろう。ふたを開けてみれば、武田クラブは序盤から各大会で優勝し、現在学校に飾っている優勝旗・カップはなんと5本。そして、東北大会をも優勝するという偉業を成し遂げてしまう。昨年以上の活躍ぶりだ。

佐々木監督が予想できなかったこの大活躍。この強さは一体どこから来るのか。どうして武田クラブは強くなり得たのか。武田クラブの変貌ぶり、その強さの秘密を探った。

Preview

10人でスタートした野球部

「野球は9人いなければできない」とよく言われるが、これは正確ではない。実は、「10人」いないと試合ができないことがある。各大会には開催要項などが定められていて、不慮のけが人などに備えるため、1チームの人数を10人以上と定めている大会があるためだ。

今年の武田クラブは、その「10人」からスタートした。

ギリギリの人数での試合出場。佐々木監督や応援の保護者は口をそろえて言う。

「ケガだけはしないで……」  
少人数クラブゆえの切実な願いだった。

でも、そのことで武田クラブにはある種の団結力が生まれたのかもしれない。「1人欠けるだけで試合ができなくなる」という危機感ともいうべき意識が、部員全員で共有され、自然と自覚が生まれていたようだ。

「自分が欠けるとチームのほかにみんなに迷惑がかかる」

こんなことを子どもたちが考えていたとしても不思議ではない。

武田クラブには、こんな環境から来る責任感がいつしか生まれる。



# 舞台の主役たち

武田クラブには、それぞれ個性あふれる13人の部員が所属している。みんながそれぞれの役割を持ち、レギュラー・控えとも誰一人として欠けてはならない存在だ。数々の勝利と強豪の名声を手に入れた、グラウンドの主人公を紹介する。

①ポジション ②学年 ③自分の持ち味 ④東北大会優勝の感想



背番号9 加藤北斗

①控え(外野) ②4年 ③ランナーを送る判断 ④一塁コーチで出場。普通の大会よりも声を張り上げてがんばった



背番号11 新谷和真

①控え(外野) ②3年 ③得意の守備でチームに貢献 ④ボールボーイの仕事がたくさん経験できてよかった



背番号12 葛西大悟

①控え(外野) ②3年 ③大きな声でチームのムードメーカー ④みんなが盛り上げて野球していたのがよかったと思う



背番号13 竹内花子

①控え兼マネージャー ②6年 ③私が来てからチームの勝率UP! 勝利の女神です ④ベンチから大きな声も出て、暑い中ががんばっていた。すごくいい思い出



背番号7 宮越銀之丞

①レフト ②6年 ③カバーリングでピンチを救う! ④決勝で2本ヒット。うれしかった



背番号8 米塚卯野

①センター ②6年 ③大きな声! ④あわせて5本ヒットを打てたことがうれしかった



背番号6 新岡勇気

①ライト ②5年 ③なかなかエラーをしない守備 ④練習ががんばってきてよかった



背番号4 菅原慎太郎

①セカンド ②5年 ③バント、選球眼、粘り ④いつもの大会より2番の仕事ができたと思う



背番号5 新岡晃成

①サード ②5年 ③ゴロのバウンドあわせがうまい ④いつもより声を出して、ヒットも出たのでほっとしている



背番号10 佐藤 駿

①ショート ②6年 ③遠くに飛ばせる打撃 ④みんなであつなく野球ができてよかった



背番号1 長利凌也

①ピッチャー ②6年 ③ピンチに動じないピッチング ④しっかり安定して投げることができた



背番号2 石沢朋也

①キャッチャー ②6年 ③空振りが少ない ④チャンスでランナーを返せたのがよかった



背番号3 新岡凱喜

①ファースト ②6年 ③フライを上げないバッティング ④バッティングでいつもより打てた



# 栄光の軌跡

## ～武田クラブ 今年的全記録～

※9/30まで

今年の武田クラブの成績は、実に華々しい。佐々木監督も初めての経験という東北大会優勝をはじめ、各大会の優勝や県大会出場など、強豪の名をとどろかせるには十分な内容だ。

武田小学校の歴史に間違いなく刻まれるであろう足跡を、各大会ごとに紹介する。



### ■春の学童野球 ～ここから快進撃が始まった～

今年、武田クラブの初公式戦は、五所川原市金木町の運動公園で桜まつり期間中に行われた「第31回全日本学童軟式野球大会(マクドナルド・トーナメント)」の予選会。冬の練習の成果が初めて試される、今後を占う大会だ。

武田クラブはこの大会で3戦を戦ったが、すべて接戦だった。初戦も決して楽な試合ではなかった。しかし、結果として優勝をもぎ取ることになる。

特に決勝の中里北光クラブ戦は、序盤に4点をリードしながらもじわじわと追いつかれ、最終回もあわや同点という場面があった。そこをよくしのいでの優勝は、今年の武田クラブが持っている競り合いの強さを物語っている。

#### 優勝! 第31回全日本学童軟式野球大会 5/3～4

2回戦 武田 5-3 板柳東 準決勝 武田 2-1 板柳南  
決勝 武田 4-3 中里北光

### ■スポ少町予選 ～ライバルとの対戦が成長させる～

学童野球の次の週、スポーツ少年団軟式野球交流大会町予選会が行われた。佐々木監督があとで振り返ってみて、子どもたちの成長の契機となる試合が、決勝で展開される。

スコアは1-0。対戦相手は中里北光クラブだ。

武田クラブが地区を勝ち抜くために避けて通れない相手との一戦は、小学生の試合では珍しいロースコアでの展開となる。お互いに守りが堅く、神経をすり減らす戦いが繰り広げられたが、ここでも武田クラブは接戦をものにした。

子どもたちのたくましさ、頼もしさが感じられた一戦となった。



写真は西北五予選会のもの

#### スポーツ少年団軟式野球交流大会中泊町予選会 5/15

準決勝 武田 12-1 小泊イカース  
決勝 武田 1-0 中里北光

#### スポーツ少年団軟式野球交流大会北郡予選会 6/11

武田 11-6 鶴田

#### 第31回全日本学童軟式野球大会青森県大会 6/5・11～12

1回戦 武田 14-2 大湊パイレーツ 2回戦 武田 9-3 文京グレートドラゴンズ  
準決勝 武田 2-9 黒石ダイヤモンドキッズ



### ■健やか少年野球大会

～試合展開に落ちつきが見え始める～

春の予選と県大会を経た武田クラブは、夏になって開花し始める。

この大会でも武田クラブは優勝するのだが、春まではあった慌てる場面が確実に少なくなっていた。がむしゃらにもぎ取った、という印象ではなく、ナインや控え、監督、コーチがそれぞれやるべきことを確実にこなし、優勝を勝ち取っている。

いよいよ、武田クラブが本物の強さを獲得し始めていると感じた大会だった。

#### 優勝! 第7回中泊町健やか少年野球大会 7/27～28

準決勝 武田 8-3 中里北光 決勝 武田 8-4 栄



**青森県少年軟式野球大会北郡予選 7/3・9・16**

1回戦 武田 8-0 梅沢      2回戦 武田 23-1 富士見  
準決勝 武田 10-4 中里北光      決勝 武田 8-14 鶴田

**■ローリングス旗争奪東北少年野球大会**

～とうとう頂点に～

武田クラブにとって、この上ない名誉を獲得した東北大会。出場権は去年のチームが獲得したとはいえ、現チームが春から培ってきた力を十二分に発揮し、とうとう頂点に立った。武田クラブの強さを決定づける、今年最高の優勝だ。

試合展開も強豪の名を語るにふさわしい。決勝までの試合は、危なげない大差での勝利。そして決勝では、3点ビハインドをひっくり返しての逆転勝ち。特に決勝の逆転勝ちには、コーチたちが「今年後半は、先制されても取り返せる雰囲気がある」と語っているとおり、あきらめない野球で優勝の栄冠に輝いた。

もう、武田クラブの強さに疑問を挟む人はいなくなった。

**優勝！ 第5回ローリングス旗争奪東北少年野球大会 8/13～14**

2回戦 武田 16-0 蔵増キングライオンズ(山形県代表)  
準決勝 武田 11-1 ふくしまBS(福島県代表)  
決勝 武田 5-3 花館ドッカーンス(秋田県代表)



**優勝！ 第27回中泊ライオンズクラブ旗争奪学童野球大会 8/27～28**

1回戦 武田 12-2 金木      準決勝 武田 9-1 市浦野球  
決勝 武田 4-3 中里北光

**優勝！ 金木カップ争奪少年野球大会 9/24～25**

1回戦 武田 3-1 中里北光  
準決勝 武田 4-0 嘉瀬  
決勝 武田 6-0 金木

**スポーツ少年団軟式野球交流会西北五予選会 6/19**

準決勝 武田 2-7 五所川原南

**優勝！ 五所川原防犯野球大会 7/23～25**

1回戦 武田 8-3 鶴田      2回戦 武田 7-1 嘉瀬  
3回戦 武田 4-0 富士見      準決勝 武田 5-2 中里北光  
決勝 武田 5-4 五所川原南



**〈町長にも報告～東北大会優勝で～〉**

8月18日(木)、武田クラブは町長室で東北大会優勝を報告した。この報告には、選手13人と佐々木監督、下山校長が訪れ、大きな喜びを町長に語った。

野球での東北大会優勝に町長は驚いた様子で、快挙達成に「よくがんばった。おめでとう」と選手をねぎらっていた。

**■中泊ライオンズクラブ旗争奪学童野球大会**

～ライバルが牙をむく～

これまで辛酸をなめてきた中里北光クラブが、この日こそは、といった勢いで武田クラブを攻め立てた。

決勝で繰り広げられた中里北光クラブとの一戦は、延長特別ルール(8回以降ノーアウト満塁でのスタート)での決着となる。

武田クラブ、中里北光クラブとも両エースの投げ合いで始まった試合は、やはり接戦となり、1回から本塁でのクロスプレーなど、白熱の試合展開を見せる。武田クラブは先制したものの、終盤に追いつかれ、防戦を強いられる戦いとなった。

しかし、追いつかれながらも何とか同点に持ち込んだ武田クラブは、特別ルールでの勝ちを拾うことになる。このチームが持っている勝負強さは、何か不思議なものを感じさせる。

**第1回「ケーキハウス白い森」ありがとう学童軟式野球大会 9/17～18**

1回戦 武田 3-2 城北タイガース      2回戦 武田 8-0 天間西ジャイアンツ  
準決勝 武田 7-4 下長ボルテックス      決勝 武田 1-7 三沢小ジャイアンツ

公式戦通算成績：36勝4敗1分